

科目名	健康生活看護学(成人・急性期)			ナンバリング	PEN241	授業形態	講義
対象学年	2年	開講時期	後期前半	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	嵯山 定美	担当教員	○嵯山定美、狩谷恭子				

授業の概要	成人期にある人の健康課題として、急激な健康破綻をきたす心筋梗塞や脳出血などの急性疾患や急性肺炎などの感染症、または、事故による負傷などの病態生理について、人体の構造と機能に基づいてとらえるとともに、それらの特異的な治療方法および看護援助技術について学修する。また、特定の診療科で用いられる最新の診断技術や看護援助技術についても学修する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の急性期とはどのような状態かを説明できる。 2. 急激な健康破綻をきたした成人と家族の特徴を理解できる。 3. 急激な健康障害(循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害、多発外傷)をきたした成人の身体的・心理的・社会的な特徴と課題を説明できる 4. 急激な健康障害(循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害、多発外傷)をきたした成人の検査・治療に伴う看護の根拠および看護の特徴を説明できる 5. 急性期看護に必要な技術を演習により習得できる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活看護学(成人・急性期・周手術期)の科目は統合して学修する必要があります。さらに、慢性期・回復終末期の内容にも関連していることを理解し学修する。 2. 本科目では予習として該当講義内容の病態、解剖生理などについてテキストを熟読する。 3. 病態・解剖生理・検査などはノートを作成し、予習・復習とすることを推奨する。 						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	<input type="radio"/>	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマンズムと倫理観を身につけている。					
	<input type="radio"/>	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	<input type="radio"/>	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	<input type="radio"/>	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	<input type="radio"/>	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1. 急激な健康破綻をきたした成人およびその家族について述べる。 2. 急激な循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害、多発外傷をきたした成人の身体的・心理的な特徴を述べる。 3. 急激な循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害、多発外傷をきたした成人の検査・呼吸機能・心電図12誘導検査・モニターについて述べる。 4. 急激な循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害の看護における観察項目を述べる 5. 呼吸機能訓練の看護技術を演習により習得できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急激な健康破綻をきたした成人およびその家族の特徴について説明できる。 2. 急激な循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害、多発外傷をきたした成人の身体的・心理的な特徴を説明し記述できる。 3. 急激な循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害、多発外傷をきたした成人の検査および治療に伴う看護の根拠を述べるができる。 4. 急激な循環機能障害、呼吸機能障害、脳神経機能障害、多発外傷の看護の特徴を説明できる。 5. 呼吸機能訓練の看護技術を演習により習得し、技術の特徴を述べるができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					90%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○				10%
授業態度・授業への参加							
看護技術演習							

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内レポートは原則として返却しない。レポートに関する内容について、全体的な傾向と対策について指導の機会を設ける準備がある。個別に指導を希望する学生には対応する。 2. 講義中に確認小テストを実施した場合は、解説を行う。 3. 期末試験の解答は、学生からの要望があれば期間を設けて開示する。試験の成績不振の学生には学習指導・レポートなどを行う準備がある。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	健康状態の急激な破綻・生命危機状態①	急性期にある成人の健康状態の急激な破綻・生命危機状態の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。 病気区分と特徴について説明できる。	
	第2回	健康状態の急激な破綻・生命危機状態②	急性期にある成人の健康状態の急激な破綻・生命危機状態の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。 病気区分と特徴について説明できる。	
	第3回	急性期 循環機能障害 心筋梗塞①	循環機能障害を持つ成人と家族への支援。心筋梗塞発症のメカニズムを人体の構造体の構造・機能および疾病論に基づく理解。 急性心筋梗塞の症状・アセスメント・心電図12誘導・モニターの理解。	
	第4回	急性期 循環機能障害 心筋梗塞②	侵襲的検査(血管造影)と治療に伴う看護。急性心筋梗塞の発症から回復に向けた成人と家族の支援。 日常生活、心臓リハビリテーション、発作時の対応。	
	第5回	急性期 脳神経機能障害 脳卒中①	脳卒中発症の成人と家族への支援、脳卒中のメカニズムを人体の構造・機能および疾病論に基づく理解、神経学的所見・アセスメント・侵襲的検査(血管造影)と治療に伴う看護。	
	第6回	急性期 脳神経機能障害 脳卒中②	脳出血発症の成人と家族への支援。 脳神経機能障害の急性期における看護の実際、急性期不全麻痺リハビリテーション、自己効力感を高める支援。	
	第7回	急性期 外傷	高エネルギー外傷におけるメカニズムを人体の構造・機能および疾病論に基づく理解。アセスメント・検査・治療に伴う看護。 急性期から中・長期的な経過に伴う成人および家族への支援。	
	第8回	急性期 熱傷・中毒・アナフィラキシーショック	急性の熱傷・中毒・アナフィラキシーショックのメカニズムを人体の構造・機能および疾病論に基づく理解。 熱傷・中毒・アナフィラキシーショック治療を受ける成人と家族への支援、治療と治癒過程に応じた看護。	
	第9回	急性期にある患者の生体反応と身体侵襲	急性期にある患者の生体反応と身体侵襲について理解できる。	
	第10回	急性期にある患者の生体反応と身体侵襲 グループワーク	急性期にある患者の生体反応と身体侵襲について、グループワークにてまとめることができる。	
	第11回	急性期にある患者の生体反応と身体侵襲 成果発表	急性期にある患者の生体反応と身体侵襲についてまとめ発表することができる。	
	第12回	急性期にある患者の治療	急性期にある患者の治療(主に手術療法と麻酔の影響)と起こりうる合併症およびその対処方法を理解できる。	
	第13回	急性期にある患者の治療 グループワーク	急性期にある患者の治療(主に手術療法と麻酔の影響)と起こりうる合併症およびその対処方法について、グループワークにてまとめることができる。	
	第14回	急性期にある患者の治療 成果発表	急性期にある患者の治療(主に手術療法と麻酔の影響)と起こりうる合併症およびその対処方法について、まとめ発表することができる。	
	第15回	急性期における人・家族の看護 まとめ	急性期で起こりうる倫理的問題と看護支援。 まとめ	
	試験	期末試験を実施する。		
授業の進め方	1. 授業の理解度を振り返りシートの記載内容の確認を行い、疑問・質問・意見に応えつつ、次の授業に進む。 2. 状況に応じて確認小テストを実施する。(結果を評価に含める場合は事前に知らせる)			
授業外学習の指示	1. 急性期、生命危機状態を経験者の話を直接、聞く機会を得よう努める。さらに、患者・家族の経験談の「本」を幅広く、読むこと。 2. 演習は演習課題に基づき予習・動画の視聴をおこなったうえで実施する。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	・ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 安酸 史子・鈴木 純恵・吉田 澄恵著 株式会社メディカ出版 ・ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 安酸 史子・鈴木 純恵・吉田 澄恵著 株式会社メディカ出版 ・ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 中島 恵美子著 株式会社メディカ出版
参考書	・授業中、提示する。
参考URLなど	なし
その他	なし